

登録コード	A4C01200	開講年度	2026	市民開放授業			
授業科目	森林経営政策学					担当教員	守口 海 他
英文授業名	Forest Management and Policy						三木 敦朗
単位数	2	講義期間	前期	曜日・時限	水曜・3時限	対象学生	
講義室	農学部 2 4 番講義室			授業形態	講義	遠隔授業科目	
						備考	
信大コンピテンシー 該当							
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素					⇔	【授業の達成目標】
	2 0 2 5 Aカリ						
	【2025年度以降カリキュラム対象】 2. 【専門性】 農学分野の専門的な学識と技術が身についている。					⇔	森林・林業の産業的側面、社会との関わりの基本的知識を獲得している。
	【2025年度以降カリキュラム対象】 3. 【情報分析・発信力】 論理的な思考力のもと、多様な情報を収集・分析・活用できるとともに、効果的に伝えることができる。					⇔	森林・林業の産業的側面、社会との関わりの基本的知識を獲得している。
(2)授業で学べる「テーマ」	地域運営、環境共生						
(3)全学横断特別教育プログラム							
(4)授業の概要	①森林経営学・森林政策学の学問的位置付け、他の森林分野との関連性、本講義の目標を理解する。 ②世界の森林・林業で何が起きているのかを理解し、これからの森林経営・森林政策のあるべき姿と、求める方向性を理解する。 ③日本の森林・林業の歴史を、特に近代から現在まで概観し、法制度や産業構造の変化について学ぶ。また、現在の日本の森林経営・森林政策の特徴と今日の意義・課題を考察する。 ④森林の造成・育成に関する基礎的な理論と実際を学ぶ。 ⑤上記①～④より、木材生産を行いつつ森林を保全し、さらに高度に様々な機能を発揮できる森林のあり方と経営について議論する。 担当教員が、林業事業体での実務経験を活かして講義を行います。						
(5)授業計画	1. 森林経営・経済学の基本用語と基本概念 2. 森林の利用方法の変化と商品化 3. 森林の多様な土地所有・経営 4. 林業の近代化政策の意義と限界 5. 木材の貿易と価格形成 6. 地域住民と森林の関係性の再構築 7. 森林・林業に関する地方自治の可能性 8. 3つの歴史的皆伐施業体系 9. 成長モデル 10. 密度管理図 11. 密度指標 12. 地位 13. 森林純収益・土地期望価 14. 土地貢租 15. 漸伐・択伐 授業アンケート 16. 定期試験						
(6)自主学習の指針	講義に関連する事項を、自分で調べたり考察することを推奨する。自主学習の成果があるときには、成績上でも評価する場合がある。						
(7)成績評価の基準	講義内容の8割を理解している……水準にある 講義内容のすべてを理解している……やや上にある 講義内容と、ニュースや自ら調べたことを総合して考察できる……かなり上にある 上記に加え、新たな問題提起ができる……卓越している						
(8)事前事後学習の内容	事前学習については、各時間の最後に、次週までに学習してくるべき資料等の該当部分、あるいは収集すべき資料を示す（講義は、事前学習をしているものとして進める）。事後学習については、各時間の講義内容を復習するものとする。						
(9)テストやレポートの予定	テスト（ノートと教科書・配付資料の持ち込みを不可）あるいはレポートによって評価する。なお、各時間の最後に小レポートの提出があった場合、評価の対象として考慮する場合がある。						
(10)成績評価の方法	次の結果を総合的に評価する。 1. 期末テストの結果（80%。全体の理解を測る） 2. 自主学習の成果レポート（+α加点、諸問題の解決について自ら考え整理し、そのことが身につけていると判断された場合に加点） 3. 小レポート（+α点、学習した内容について整理・理解・考察の点から相対的評価を行い、優秀と思われる場合には加点）						
(11)質問、相談への対応および連絡先	講義の中で生じた疑問や質問は、その場で質問することを基本としますが、各時間の最後に作成する小レポートに書いたり。講義終了後、直接研究室に相談に来ることも可とします。						
(12)履修上の注意	講義は事前学習をしているものとして進める。						

【教科書】	特になし
【参考書】	青木・植木編著『地域林業のすすめ』（築地書館、2020年）